

IV-206 高齢者の交通事故分析と交通安全対策

徳島大学大学院 学生員 ○中村正直 徳島大学大学院 正会員 近藤光男
 徳島大学工学部 正会員 廣瀬義伸 徳島県警察 三木大市

1. はじめに

高齢化の進行に伴い、高齢者の交通事故の増加が深刻な問題となっている。本研究では、平成9年の徳島県の交通事故データを用い、高齢者の事故の特徴を明らかにする。また、実際に起こった高齢者の死亡事故事例をもとに、事故要因を抽出し、それに対する安全対策を提案する。

2. 研究対象データ

本研究では、平成9年の徳島県の交通事故データと交通事故受理簿に基づいて分析を行った。用いたデータ件数は全年齢事故5,985件、高齢者事故1,262件、および、全年齢事故死亡者86人、高齢死亡者38人である。

3. 研究の流れ

分析方法は、図-1に示すとおりである。

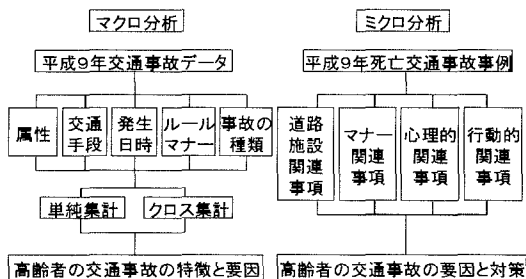


図-1 研究の流れ

4. 高齢者人口の推移

近年、我が国の人口の高齢化は急速に進行している。平成8年における65歳以上の高齢者人口は1,902万人で全人口の15.1%に達している。平成22年には2,813万人（全人口の22.0%）と更に高齢化が進むものと見込まれる。

表-1に全国の高齢者人口推移を示す。

キーワード：交通事故，高齢者，死亡事故，安全対策

連絡先：〒770-8506 徳島市南常三島町2-1 徳島大学大学院

工学研究科，TEL 088(656)7338，FAX. 088(656)7341

表-1 高齢者人口の推移

年次	全人口	65歳以上人口		75歳以上人口	
		万人	比率%	万人	比率%
昭和45年(1970)	10,467	739	7.1	224	2.1
55年(1980)	11,706	1,065	9.1	366	3.1
平成2年(1990)	12,361	1,489	12.0	597	4.8
7年(1995)	12,577	1,826	14.5	717	5.7
8年(1996)	12,586	1,902	15.1	747	5.9
12年(2000)	12,689	2,187	17.2	889	7.0
22年(2010)	12,762	2,813	22.0	1,335	10.5
32年(2020)	12,413	3,334	26.9	1,574	12.7

5. 高齢者事故者数の推移

徳島県における全交通事故死者数に占める高齢者の比率は平成4年には29.2%であったが、9年には41.0%と11.8%増加している。全人口に対する高齢者比率は平成4年で16.4%、9年で19.7%であり、それと比べると大幅な増加である。

図-2に高齢者の死者数の推移を示す。毎年、高齢者死者率が高齢者人口比率の約2倍の高い比率となっていることが分かる。

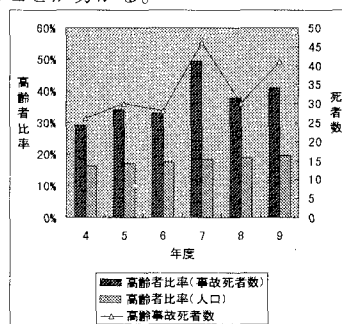


図-2 高齢者の交通事故死者数の推移（徳島県）

6. マクロ分析

本研究では、交通事故データをもとにマクロ分析として、各項目別に集計を行い、それについて考察する。分析項目は以下のとおりである。

- ①属性・・・事故当事者の性別、年齢
- ②交通手段・・・利用交通手段
- ③発生日時・・・月別、時間帯別、昼夜別、曜日別
- ④ルール、マナー・・・人的要因
- ⑤事故の種類・・・事故類型

7. マクロ分析結果

単純集計とクロス集計を行った結果、得られた各項目の特徴は次のとおりである。

①属性

第一当事者では男性が 80.9 %、女性が 19.1 %であった。これは高齢者の免許取得高齢者の男女比率(男:女=79:21)に関係があると言える。また、第二当事者では男性が 56.1 %、女性が 43.9 %であった。これは全年齢とほぼ同じ割合である。

②交通手段

高齢者では自転車・歩行者等の交通弱者が第一当事者となる割合が高い。また、第二当事者についても、自転車・歩行者の割合が高い。高齢者の免許取得率は 5.4 %なので、自動車の比率は低い。

③発生日時

月別では年末年始に多く発生している。時間帯別では、高齢者のピークは午前 10 時と午後 4 時と、全年齢のピーク時刻(午前 8 時、午後 5 時)とずれがあった。

④ルール、マナー

乗用車では発見の遅れ、二輪車では操作上の誤り、自転車では発見の遅れ、歩行者では法の無知やルール違反といったポイントが高かった。

⑤事故の種類

全年齢と比較すると、第一当事者では追突事故、第二当事者では歩行中の事故の比率が高かった。

8. ミクロ分析

本研究では、交通死亡事故データと交通事故受理簿をもとにミクロ分析として、各項目別に集計を行い、それについて考察した。分析項目は以下のとおりである。

①道路関連施設事項

②マナー関連事項

③心理的関連事項

④行動的関連事項

9. ミクロ分析結果

死亡事故データを上記の項目別に考察したところ、次のような特徴が明らかになった。

①道路関連施設事項

信号機のない交差点での事故
横断禁止場所での横断時の事故

②マナー関連事項

横断禁止場所の横断
横断信号無視

③心理的関連事項

相手車両の速度の見誤り
車が止まってくれるとの思いこみ

④行動的関連事項

高齢化に伴う身体能力低下による
横断時の横断速度の低下
安全確認不足
判断ミス

10. 交通安全対策

高齢者の事故を防止するために、以下のような安全対策を提案する。

○歩行者に対しての安全対策

- ・横断禁止標識などの標識を分かりやすく、また見やすく設置する。標識の意味を再教育する。
- ・非運転者にも自動車の交通マナーを講習させる。

○運転者に対しての安全対策

- ・免許証更新時の高齢者講習会だけでなく、運転特性試験などを行う。
- ・免許証保有者への定期的な運転特性試験、医学面から見た運転能力の検査の実施を行う。

○歩行者・運転者どちらもに対しての安全対策

- ・高齢化に伴う、身体能力・運転能力の低下を実感してもらうための体験講習会を開く。
- ・現代の交通事情・ルールを知ってもらう。

11. おわりに

本研究では、高齢者の交通事故の集計分析を行った。その結果、高齢者の事故の特徴をとらえることができた。さらに、死亡交通事故の要因の考察を通じて、それらに対する安全対策を提案した。

参考文献

- 1) 総務庁：交通安全白書総務庁編,1995.